

## 第 48 回東京春季創画展出品によせて

「South entry」

宮 いつき

---

春の創画会の絵を描く時期に、いつも咲くのが小さい胡蝶蘭で、何も世話を焼かないのに毎年、約束したように咲く。お祝い事に贈ったり、頂いたりする大きな胡蝶蘭は針金で成形されていて蛇のコブラみたいで気持ち悪いのだが、小さい胡蝶蘭だと可愛い。形を整えている針金を外すと垂れるような形になり何かの木に寄生しているみたいで、自然な形に戻り東南アジアの森の中に存在しているような感じになる。何を描こうか迷っていると、今や 10 鉢ほどに増えた胡蝶蘭たちが蕾をつけ、何となく家の色々なところからこちらを向いている。描くものがないので、いつも春はこの花たちになってしまう…

今年は玄関にある 4 鉢のうち 1 鉢を描いてみた。